中　学　校

平成 31 年度(2019 年度)

教育研究員研究報告書

美　術

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 ･････････････････････････････････ 1

Ⅱ　研究仮説 ･･･ 2

Ⅲ　研究の視点と手だて ･････････････････････････････････ 2

Ⅳ　研究方法 ･･･ 3

Ⅴ　研究の内容 ･･････････････････････････････････････ 4

○　研究構想図 ･･････････････････････････････････････ 4

○　検証授業１ ･･････････････････････････････････････ 5

○　検証授業２ ･･････････････････････････････････････ 8

○　検証授業３ ･･････････････････････････････････････ 11

Ⅵ　研究の成果と課題 ･･････････････････････････････････ 14

○　アンケート調査の結果と分析 ･･････････････････････ 14

○　まとめ ･･ 16

造形的な見方・考え方を働かせることで
感性や想像力を高める指導の工夫

Ⅰ　研究主題設定の理由

１　現状と課題及び中学校美術科に求められていること

人工知能（AI）が飛躍的に進化し、社会構造などの急速な変化が予測困難なこれからの時代を生きていく子供たちは、これまでになく人間が人間であることを意識しなければならなくなるだろう。このような時代においては、人工知能（AI）の思考に目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできることが人間の強みとなると考える。

「新しい時代の初等中等教育の在り方について(諮問)」(中央教育審議会　平成 31 年４月)では、「今世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤となっている知識基盤社会と言われており、人工知能（AI)、ビッグデータ、Internet of Things(IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが現在とは『非連続的』と言えるほど劇的に変わるとされる Society5.0 時代の到来が予想されています。このような急激な社会的な変化が進む中で、子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え持続可能な社会の作り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成することが求められており、それに対応し、学校教育も変化していかなければなりません。」と述べられている。

上記のとおり、21 世紀は Society5.0 時代とも呼ばれ、これまでになく劇的な社会及び生活環境の変化が訪れることが予想されている。このような課題を受けて改訂された中学校学習指導要領解説美術編では、「感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活と社会と豊かに関わる態度を育成すること等については、更なる充実が求められる。」と示されている。

人間の強みである感性や想像力を豊かに働かせながら、目的のよさ・美しさを判断していく資質・能力を育むことは、これからの予測不可能な未来を生き抜く子供たちにとって不可欠であり、中学校美術科に最も求められることではないかと考える。

中学校美術科の指導において、感性や想像力をどのように働かせていくか。その指導の基盤となるのが「造形的な見方・考え方」である。「造形的な見方・考え方」とは、生徒が感性や想像力を働かせて、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことである。

本研究では、美術科ならではの物事を捉える視点であるこの「造形的な見方・考え方」を働かせることで、生徒の感性や想像力を引き出し、高めていく授業を行うことを重視する。「造形的な見方・考え方」を働かせる指導を積み重ねることで、生徒はこの「見方・考え方」を生活や社会の中で主体的に活用できるようになり、その後の人生においても、自ら感性や想像力を高めていくことができるようになると思われる。義務教育最終段階としての系統性

を鑑みて、これからの時代を担う子供たちの感性や想像力を高められるような指導を工夫することは、高等学校での STEAM 教育（Science,Technology,Engineering,Art,Mathematics 等の各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的な教育）へつながると考える。

このような現状と課題を踏まえて、本研究主題を「造形的な見方・考え方を働かせることで感性や想像力を高める指導の工夫」とした。

２　目指す生徒像

これからの変化の激しい時代を生き抜いていくためには、人間としての強みである感性や想像力を生涯にわたって豊かに働かせて、新たな意味や価値をつくりだしていくことのできる生徒を育成することが求められている。また、表現及び鑑賞の指導を通して「造形的な見方・考え方」を働かせる経験を積み重ね、生徒が美術科での学習内容を、実感を伴って、その後の人生や社会の在り方と結びつけて理解できるように指導することが必要である。

以上のことを踏まえて、目指す生徒像を「新しい時代を切り拓いていくための創造力のある生徒」及び「生活や社会の中で美術や美術文化と豊かに関わる生徒」とした。

Ⅱ　研究仮説

表現と鑑賞の活動を相互に関連させた〔共通事項〕を意識した授業づくりによって、生徒は「造形的な見方・考え方」を働かせ、感性や想像力が高まっていくだろう。

Ⅲ　研究の視点と手だて

１　研究の視点

本研究では、生徒が「造形的な見方・考え方」を自在に働かせて感性や想像力を高めるためには、対象や事象を造形的な視点を基に捉えられるように指導することが極めて重要だと考える。造形的な視点とは、様々な対象や事象の造形の要素（形や色彩、材料、光など）に着目してその性質や効果を捉えたり、全体に着目してイメージを捉えたりする視点のことである。

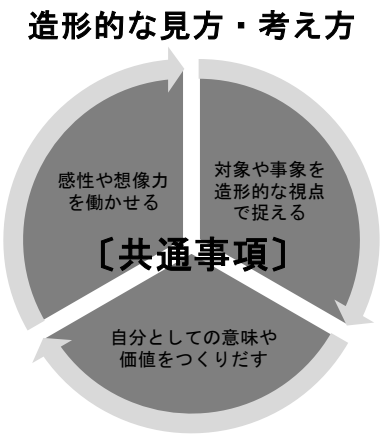


図１「造形的な見方・考え方と〔共通事項〕との関係」

中学校学習指導要領解説美術編では、〔共通事項〕が造形的な視点を豊かにするために必要な知識として整理されている。図１のように、〔共通事項〕を意識して検証授業を行うことによって、生徒は対象や物事を造形的な視点で捉えるようになり、「造形的な見方・考え方」を働かせることができるようになる。

教師が〔共通事項〕をより意識した授業改善に取り組むことで、生徒は感性や想像力を働かせて、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことができると考え、表現及び鑑賞の活動を相互に関連させ、「〔共通事項〕をより意識した授業改善」を行うことを、研究の視点として設定した。

２　研究の手だて

本研究の視点である、表現及び鑑賞の活動を相互に関連させ、「〔共通事項〕をより意識し

た授業改善」を行うために、次のとおり手だてを設定し、実践研究を行う。

(1)　題材設定の工夫

指導計画を作成する際には、表現及び鑑賞の活動を相互に関連させるために、造形的な視点を豊かにするための知識である〔共通事項〕を適切に位置付ける。また、〔共通事項〕の視点を踏まえて授業のめあてやねらいを設定し、題材を通して身に付けるべき資質・能力について生徒と教師が共有できるように指導を工夫する。

(2)　場面設定の工夫

〔共通事項〕を実感的に理解できるよう、主体的・対話的で深い学びに導く場面を適切に設定する。

Ⅳ　研究方法

１　基礎研究

以下の資料を参考に、文献研究を行い、本研究の裏付けとなる内容を調査・検討し、本研究の根拠とする。

・「中学校学習指導要領解説美術編」（文部科学省　平成 20 年９月）
・「平成 25 年度学習指導要領実施状況調査　教科等別分析と改善点（中学校　美術）」国立教育政策研究所
・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会　平成 28 年 12 月 21 日）
・「中学校学習指導要領解説美術編」（文部科学省　平成 29 年７月）
・「平成 29 年度小・中学校新教育課程説明会（中央説明会）における文部科学省説明資料　新しい学習指導要領の考え方　―中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ―」（文部科学省　平成 29 年９月）
・「Society5.0 に向けた人材育成　～社会が変わる、学びが変わる～」（文部科学省　Society 5.0 に向けた人材育成に関わる大臣懇談会　新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース　平成 30 年６月５日）
・「中学校学習指導要領　美術科の改訂のポイント　文部科学省初等中等教育局　視学官　東良雅人：オンライン研修教材」（独立行政法人教職員支援機構　平成 30 年 12 月 27 日）
・「新しい時代の初等中等教育の在り方について（諮問）」（文部科学大臣　平成 31 年４月 17 日）
・「学習評価の在り方ハンドブック」（国立教育政策研究所　令和元年６月）

２　実践研究

研究主題及び仮説に基づいた題材設定及び題材開発を行い、前述した手だてを講じた授業改善を行う。また、検証授業によって、指導方法が有効であったかを検証及び分析し、研究協議で成果と課題を明らかにする。

３　検証授業

題材の評価規準は「中学校学習指導要領解説美術編」（文部科学省　平成 20 年９月）に基づいている。

Ⅴ　研究の内容

１　研究構想図

東京都教育研究員共通テーマ　『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善

「中学校学習指導要領美術編」目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

目指す生徒像

● **新しい時代を切り拓いていくための創造力のある生徒**

変化の激しい時代を生き抜いていくことができるように、人間としての強みである**感性や想像力**を生涯にわたって豊かに働かせて、新たな意味や価値をつくりだしていくことのできる生徒の育成。

● **生活や社会の中で美術や美術文化と豊かに関わる生徒**

「造形的な見方・考え方」を働かせる経験を積み重ねることで、美術科での学習内容をその後の人生や社会の在り方と結び付けて理解できる生徒の育成。

研究主題

造形的な見方・考え方を働かせることで感性や想像力を高める指導の工夫

研究の視点

〔共通事項〕をより意識した授業改善

〔共通事項〕をより意識した授業改善を行い、表現及び鑑賞の活動を相互に関連させた題材及び場面設定を工夫する。

手だて

(1)　題材設定の工夫

・〔共通事項〕を知識として整理して位置付ける。

・授業のめあてやねらいを明確にし、身に付けるべき資質・能力について生徒と教師が共有する。

(2)　場面設定の工夫

・主体的、対話的で深い学びに導く場面設定を行う。

造形的な見方・考え方

〔共通事項〕の指導における課題

● 形や色彩の性質や、それらがもたらす感情の理解、形や色彩の特徴などを基に、イメージを捉えることについては、感覚的に捉えやすい内容に関して、相当数の生徒ができていると考えられる。一方、概念や動きなど、造形的な視点をもって考えなければ捉えにくい内容に関しては、課題があると考えられる。

● 〔共通事項〕に示されている形や色彩などの性質やそれらがもたらす感情などの視点をもって発想や構想をしたり鑑賞をしたりすることに課題があると考えられる。

「平成 25 年度学習指導要領実施状況調査」（国立教育政策研究所）

仮説

表現と鑑賞の活動を相互に関連させ、〔共通事項〕をより意識した授業づくりによって、生徒は「造形的な見方・考え方」を働かせ、感性や想像力が高まっていくだろう。

２　内容

［検証授業１］　（対象　第１学年）

１　題材名　「わたしの変身面」　―なりたい自分を見つけていく―

・Ａ表現（１）ア(ｱ)、（２）ア(ｱ)及び(ｲ)

・Ｂ鑑賞（１）ア(ｱ)

・〔共通事項〕（１）ア及びイ

２　題材の目標

ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等	ウ　学びに向かう力、人間性等
①形や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解する。 ②表したいイメージを基に造形的な視点を働かせて、材料や用具の特徴を活かしながら創意工夫して表現する。	①なりたい自分の姿を想像して主題を生み出し、形や色彩の効果を活かして自分としての意味が実感できる表現の構想を練るとともに、形や色彩の特徴などから作者の心情や表現の意図と工夫について考え、造形に対する見方や感じ方を広げる。	①なりたい自分の姿を基に、造形的な視点を働かせて主体的に表現しようとする。

３　題材の評価規準

ア　美術への関心・意欲・態度	イ　発想や構想の能力	ウ　創造的な技能	エ　鑑賞の能力
①なりたい自分の姿を基に、形や色彩などの造形的な視点を働かせて主体的に表現しようとしている。 ②自他の面の形や色彩の特徴などから、作者の心情や表現の意図の工夫などを主体的に感じ取ろうとしている。	①なりたい自分の姿を想像して主題を生み出し、形や色彩の効果を生かして、自分としての意味が実感できる表現の構想を練っている。	①表したいイメージを基に、造形的な視点を働かせて材料や用具の活かし方を考え、創意工夫して表現している。	①形や色彩の特徴などから、作者の心情や表現の意図の工夫などを主体的に感じ取り、自分の思いや考えを大切にしながら、見方や感じ方を広げている。

４　研究主題との関連

視点	手だて	教師の準備、働きかけ	生徒の具体的な活動
① 題材設定の工夫	・導入の鑑賞活動で、形や色彩の性質や効果を意識させる。 ・〔共通事項〕を踏まえたねらいを示す。	・導入で小面と般若面を比較鑑賞し、その後の表現活動においても〔共通事項〕を意識できるよう指導する。 ・造形の要素と表現の意図とのつながりを記入できるワークシートを準備する。	・形や色彩の性質や効果を理解し、表現に生かそうとする。 ・表したいイメージと造形の要素とのつながりを意識しながら表現を深める。
② 場面設定の工夫	・自分自身に関わることから主題を生成させる。 ・他者の意見を踏まえつつ、造形的な見方・考え方を広げる。	・ワークシートを活用し、自己との対話によって主題を深める場面を設定する。 ・全体での鑑賞活動を行う。 ・制作中のつまずきなどは適切な場面で全体に共有し、生徒同士の対話で解決できる雰囲気をつくる。	・自分に関わることから主体的に主題を生成する。 ・自分の思いや考えを大切にしながら、他者の意見を踏まえて見方・感じ方を広げる。

５　指導観

(1)　題材観

本題材の目標は、「中学校学習指導要領美術編」の内容におけるＡ表現（１）ア(ｱ)、（２）ア(ｱ)及び(ｲ)、Ｂ鑑賞（１）ア(ｱ)、〔共通事項〕（１）ア及びイを受けて設定した。本題材は、かぶることで「なりたい自分」になれる面を想像し、帯紙をステープラーで留めてつくった型に新聞紙や和紙を糊で貼り付け、アクリル絵の具などで彩色して面を制作する活動である。

導入の鑑賞活動において形や色彩の性質や効果を意識させることで、その後の表現活動においても造形的な見方･考え方を働かせて表現を深められるよう指導を工夫した。また、生徒が造形的な見方･考え方を働かせるためには、主題を明確にもつことが重要だと考え、

自分自身に関わることから主題を深めることで主体的に表現活動ができるように、「なりたい自分」の面を表現するという本題材を設定した。

(2)　教材観

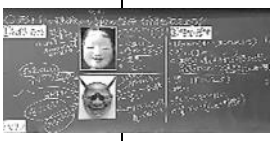
本教材は、帯紙を使用することで思い描いた形を容易に制作でき、偶然できた形を生かして新たな発想を得ることもできる。材料を継ぎ足したり切り取ったりする過程の中で、生徒は表したいイメージにせまるために創意工夫し、造形的な見方・考え方をより一層働かせることができるだろう。

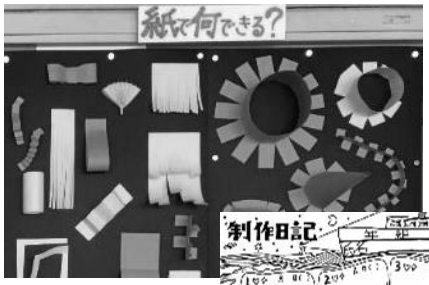
(3)　材料・用具

生徒…資料集、教科書、筆記用具、色鉛筆、アクリル絵の具、ステープラー

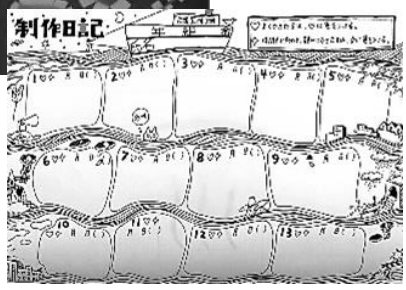
教師…プロジェクター、書画カメラ、図版、ワークシート、制作日記、新聞紙、和紙、工作用紙、画用紙、でんぷんのり、平筆、はさみ、セロハンテープなど

6　指導計画（12 時間扱い）　めあて…実　線　、研究の視点との関連…点　線

次	時	○生徒の活動（主な学習内容）	◆指導上の留意点 ◇教師の支援	【評価規準】 （評価方法）
第1次	1	面の造形的な特徴を根拠に性格や感情を想像する。 ○能面（小面と般若面）を鑑賞し、眉・目・口・輪郭などの造形的な特徴から性格や感情を読み取る。 ○鑑賞して感じ取ったことをワークシートに記入し、発表する。 研究の視点との関連 ①形や色彩の性質やそれらが感情にもたらす効果を実感的に理解する。	◆面の造形的な特徴を根拠に、性格や感情との関連を感じ取れるよう指導する。 ◇二つの面を比較しながら、造形の要素を読み取れるようにする。 	【ア-②】 【エ-①】 （観察、対話、ワークシート）
第2次	2・3（本時）	主題を基に、形や色彩の性質や効果を生かして表現の構想を練る。 ○なりたい自分を想像し、形や色彩の効果を活かして表現の構想を練る。 ○普段の自分を見つめた上で、なりたい自分の姿を想像する。 ○なりたい自分の姿から連想する形・色・モチーフなどをワークシートに書き出しながら、アイデアスケッチにまとめる。 研究の視点との関連 ①主題から連想する形や色彩を工夫して組み合わせ、表現の構想を練る。 ②普段の自分を見つめてから、「なりたい自分」を想像し、表現の構想を練る。	◆内面について表現してもよいし、理想の自分の姿などを表現してもよいと発想が広がるような発問をする。 ◇アイデアが思いつかない生徒には、「こうだったらいいなと思うことはある？」、「形は？色は？ヒントになりそうなものは？（動物など）」と聞いてみるなど、造形の要素を分解することで、生徒が発想しやすくなるように支援する。	【ア-①】 【イ-①】 （観察、対話、ワークシート）

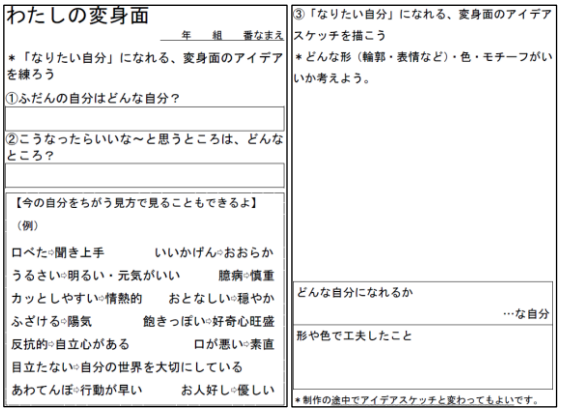


「材料や用具の活用例」



「制作日記（第１～４次）」

「ワークシート（第２次）」



わたしの変身面

年　組　番なまえ

＊「なりたい自分」になれる、変身面のアイデアを練ろう

①ふだんの自分はどんな自分？

②こうなったらいいな～と思うところは、どんなところ？

【今の自分をちがう見方で見ることもできるよ】

（例）

ロべた☆聞き上手　いいかげん☆おおらか

うるさい☆明るい・元気がいい　臆病☆慎重

カッとしやすい☆情熱的　おとなしい☆穏やか

ふざける☆陽気　飽きっぽい☆好奇心旺盛

反抗的☆自立心がある　口が悪い☆素直

目立たない☆自分の世界を大切にしている

あわてんぼ☆行動が早い　お人好し☆優しい

③「なりたい自分」になれる、変身面のアイデアスケッチを描こう

＊どんな形（輪郭・表情など）・色・モチーフがいいか考えよう。

どんな自分になれるか

…な自分

形や色で工夫したこと

＊制作の途中でアイデアスケッチと変わってもよいです。

第3次	4〜11	主題を基に、形や色彩の効果を生かして、工夫して表現する。 ○材料や用具をどのように工夫すれば表したいイメージにせまれるか、造形的な視点を働かせて考え、創意工夫して表現する。 ○試行錯誤しながら形や色彩を工夫して表現する。 ○制作過程でアイデアスケッチからイメージが変わる場合もある。 研究の視点との関連 ②生徒からの質問やつまずきに対し、適切な場面において全体で共有し、生徒同士の対話によって表現が深まるよう指導する。	◆制作過程でアイデアスケッチからイメージが変わってもよいことを伝える。 ◇工作用紙を組み立て、継ぎ足したり切り取ったりすることで、凹凸を表現できることが理解できるよう実演する。 ◇絵の具の使用方法や色彩の性質や効果などの既習事項については教室掲示し、必要に応じて確認できるように環境を整える。 	【ア-①】 【イ-①】 【ウ-①】 （観察、対話、ワークシート、作品分析）
第4次	12	自他の作品の形や色彩の特徴や印象などから、込められた思いを感じ取る。 ○自他の作品のよさ、込められた思いと造形の要素との関わりを感じ取る。 ○形や色彩の特徴を基にどんな自分に変身したかを発表し合う。 研究の視点との関連 ②自他の作品の造形的な特徴から込められた思いや表現の工夫を感じ取り、見方や感じ方を広げる。	◆自分や友達の作品のよさ、込められた思いと形や色彩との関わりを理解できるよう指導する。	【ア-②】 【エ-①】 （観察、対話、ワークシート、作品分析）

7　成果と課題

導入の鑑賞活動で形や色彩の性質や効果を意識させたことで、その後の表現活動においても、生徒が表したいイメージと造形の要素とのつながりを意識しながら表現を深める姿が見られたことが成果である。「普段は目立たないけれど、本当は目立ちたいから派手な色合いにしたい。」や「色々な感情を表に出さずに封印したいから、鍵穴をモチーフにしたい。」、「素直でゆっくり生きたいからカメをモチーフにして、甲羅をカラフルにすることで色々な思いを込めていることを表したい。」などの生徒の姿から、表したいイメージをよりよく表現しようとする過程で、造形的な見方・考え方を働かせていたことが読み取れる。

本題材は第２次において、普段の自分を見つめてから「なりたい自分」の姿を想像し、表現の構想を練るよう指導した。主題を生成する際は、「こうなりたい！」という漠然としたイメージがあっても、アイデアスケッチを描くとなると表現活動が進まなくなる生徒もいる。このような生徒に対しては、形・色彩・モチーフなど作品を構成する要素を分解した中から選択して組み合わせていくことや、様々な仮面や絵画作品などを鑑賞することが造形的な見方・考え方を働かせるための手だてとなるだろう。

「生徒作品」

［検証授業２］　（対象　第２学年）

1　題材名　比べる鑑賞　―イロイロなペットボトルをよ～くみて味わってみよう！―

・Ｂ鑑賞（１）ア(ｲ)

・〔共通事項〕（１）ア及びイ

2　題材の目標

ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力	ウ　学びに向かう力、人間性等
①対象や事象を捉える造形的な視点について理解する。	①造形的な要素を基に、お茶のペットボトルを主体的に鑑賞し、生活の中のデザインの機能性や洗練された美しさとの調和について意識して考え、見方や感じ方を深める。	①主体的に鑑賞活動に取り組み、学んだことを今後の表現及び鑑賞の活動に生かそうとする態度を養う。

3　題材の評価規準

ア　美術に関する関心・意欲・態度	エ　鑑賞の能力
①主体的に鑑賞活動に取り組み、学んだことを今後の表現及び鑑賞の活動につなげようとしている。	①造形的な要素を基に対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、主体的に生活の中のデザインの機能性や洗練された美しさとの調和について意識し、価値意識をもって見方や感じ方を深めている。

4　研究主題との関連

視点	手だて	教師の準備、働きかけ	本時の生徒の具体的な活動
① 題材設定の工夫	・生徒にとって身近なペットボトルを造形的な視点で捉えることで、見方・考え方を広げるために、〔共通事項〕の指導事項を踏まえた指導を行う。	・これまで表現及び鑑賞の活動を通して学習してきた造形的な視点を整理し、本時の学習内容が深まるように板書やワークシートなどを工夫する。	・生活にとって身近なお茶のペットボトルを造形的な視点で捉えることで、根拠をもって鑑賞し、グループ鑑賞につなげる。 ・班で協力してお茶のペットボトルのデザインの特徴を、タブレット端末を活用して調べたり、まとめたりする。
② 場面設定の工夫	・グループ学習や学習を見通し振り返る場を設定することで、対話的、主体的な学びの場をつくる。	・グループでの学習がスムーズに進むように、道具の準備や支援を行う。	・自分の意見と他者の意見をワークシートにまとめる。造形的な視点で対話を深めながら、他者と協力してまとめ、他の班の発表を共有することで、デザインの目的や機能について実感的に理解を深める。

5　指導観

(1)　題材観

本題材の目標は、「中学校学習指導要領解説美術編」の内容におけるＢ鑑賞（１）ア(ｲ)、〔共通事項〕（１）ア及びイを受けて設定した。「比べる鑑賞」という主題材名は、３年間共通の鑑賞題材名である。副題では、毎回本時の授業の展開や目標、視点などを生徒にとって分かりやすく示している。「イロイロ」というキーワードにより、色彩だけでなく、形や材質、触感等までイメージを広げ、多角的に鑑賞活動が進むようにし、生徒にとって美術で学習してきた形や色彩、イメージ等を捉えるための指標となっている。本時では、造形的な視点を豊かにするために必要な知識として、〔共通事項〕の指導項目である形や色彩、材料、光等の性質や、それらが感情にもたらす効果等についても適切に指導を行う。

(2)　教材観

本校では、タブレット端末が一人一台配備されているため、タブレット端末を活用した調べ学習や発表活動などが滞りなく進められる環境にある。また、班活動での対話的で深い学びに有効なホワイトボードの活用による学習形式が浸透している（本時では班ごとに紙にまとめる）。これらの教育資源を適宜活用しながら、自分の意見と他者の意見をまとめ、造形的な視点をもってタブレット端末を活用して調べたことをまとめ、生活と結び付いたデザインの鑑賞活動を行う時間にしたい。

(3)　材料・用具

生徒…筆記用具、教科書２・３年上、タブレット端末、お茶のペットボトルを２種類ずつ８セット計 16 本（本時では、緑茶のペットボトルを使用した）

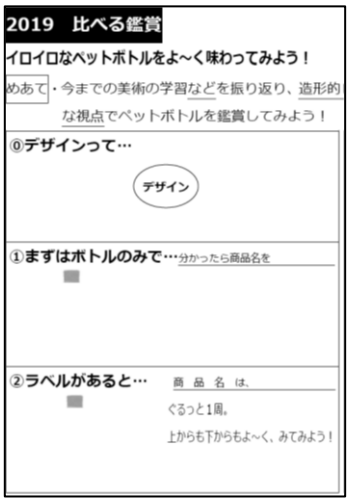
教師…タブレット端末、プロジェクター、画用紙、ワークシート

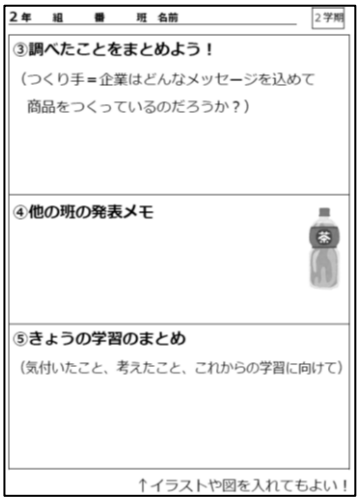
6　指導計画（２時間扱い）　めあて…実　線　、研究の視点との関連…点　線

次	時	○生徒の活動（主な学習活動）	◆指導上の留意点 ◇教師の支援	【評価規準】 （評価方法）
第1次	1	既習事項を踏まえて、造形的な見方・考え方を深めて鑑賞し、生活の中のデザインについて考えよう。		【ア-①】 （観察、ワークシート）
		○「デザイン」という言葉を聞いて、どんなことを連想するかを考える。 ○1 年生の時に学習した「文じも字コレクション」や「フォントコレクション」、今年度学習した「自分のロゴ・マークづくり」など、具体的な美術科での学習を振り返る。	◇既習事項の振り返りを的確に行い、本時のめあてを生徒に示す。 ◇ICT を活用し、視覚的に造形の要素を整理して生徒に示す。 ◆他教科との関連を示し、生徒の興味・関心を高める。	
		研究の視点との関連 ①既習事項に関する知識等を整理して示すことで、価値意識をもって鑑賞活動に取り組めるようにする。形や色彩、材料、光などの特性やそれらが感情にもたらす効果などに着目させる。		
		○４名８班編成で、班で鑑賞する。ラベルのないペットボトルを鑑賞して、気付いたことをまとめた上で、ラベルのあるペットボトルを渡し、2 本を比較しながら、造形的な視点でペットボトルを鑑賞する。各自が鑑賞して気付いた内容をワークシートにまとめる。	◇特別な配慮が必要な生徒、課題の理解に時間を要する生徒を重点的に声掛け、支援する。 ◇適宜、全体への声掛けを行い、造形的な視点で鑑賞活動が進むように雰囲気をつくる。 ◆タブレット端末での調べ学習の際には、情報源の信憑性について触れる。ICT を活用し、生徒がまとめたことが全体にわかりやすく伝わるように支援する。 ◆デザインにはつくり手と受け手がいることを意識させる。	【エ-①】 （観察、ワークシート）
		研究の視点との関連 ②グループでの鑑賞活動を通して、一人一人が感じたことの共通点や相違点などについて主体的に理解を深められるようにする。		
		○タブレット端末を活用し、ペットボトルのお茶のデザインについて調べたことを班で工夫してまとめる。	◇技術科（素材感や値段との関係）や理科（リサイクル）などで学習した内容にも触れ、他教科との関連についても言及し、今後の各教科での学習活動への興味・関心を高める。	【エ-①】 （観察、ワークシート）
第2次	2（本時）	既習事項を踏まえて、造形的な見方・考え方を深めて鑑賞し、生活の中のデザインについて考えよう。		【ア-①】 （観察）
		○前時の内容を振り返り、本時の学習内容を理解する。	◇ICT を活用し、視覚的に造形の要素を整理して生徒に示す。 ◆他教科との関連を示し、生徒の興味・関心を高める。	
		○学級全体で、班代表者の発表を聞き、普段何気なく手にしている商品のデザインについて造形的な視点で鑑賞することで、造形への見方・考え方が広げられることに気付く。 ○学級全体で、スライドで身近なデザインの鑑賞をする。	◇班ごとに鑑賞し、まとめたことを共有させる。造形的な見方、考え方が深まるように発表する生徒への支援を行う。 ◇生活に身近なデザインについて視覚教材を用いて鑑賞させる。 ◆タブレット端末やプロジェクターなどの ICT を活用し、視覚的に生徒の興味・関心を高める。 	【エ-①】 （観察、ワークシート）

	研究の視点との関連 ①生活の中にある形や色彩、光などの材料や、それらが感情にもたらす効果などを捉えたり、造形的な特徴などを基に、全体のイメージを捉えたりして、造形感覚を豊かにしていく働きが美術にあることを示す。			
		○本時までの学習内容を振り返り、まとめる。	◇本題材で学習したことが、これからの学習（美術だけでなく）や生活に生かしていけるような示唆を与える。	【エ-①】 （観察、ワークシート）

7　成果と課題





本題材の第一次の導入において、「デザイン」という言葉からイメージすることを、マインドマップを活用して生徒に書かせたところ、指導者が思っているほどマインドマップが広がらなかった。これまでの授業では、折に触れて身の回りの商品や表示などについて触れたり、生徒自らデザインしたりする活動を行ってきた。しかし、生徒にとっては、主体的に美術の学習で得たことや経験を生活の中で関連付けることが難しい。そこで、日頃から意図的に、実際の商品を扱った鑑賞活動や調べ学習を行うことで、日常的に造形感覚を高めていく態度を育んでいくことができるのではないかと考えた。

本題材では、まず、ラベルなしのペットボトルを実際に触りながら鑑賞をさせることで、ペットボトルの形状、ふたの色彩や形、お茶自体の色や光の透過具合などに興味・関心が広がるようにした。ラベルを取るなどして情報を制限することで、ペットボトルそのものをじっくりと見ることができた。そのことによって、生徒がより造形的な見方・考え方を働かせてペットボトルを鑑賞し、ラベルありのペットボトルを渡した際には、「このラベルは〇〇茶で、筆文字みたいに書体を工夫している。」、「全体が渋い緑色を使っていて、赤で落款みたいに『お茶』と印を入れているので、補色の関係で全体が引き締まる。」、「どのお茶も実際のお茶は緑茶なのに緑色ではないけれど、緑茶のイメージとして緑色や黄緑色を多用している。」など、これまで以上に造形的な見方・考え方を働かせた意見が出た。これまでの美術の学習で学んできたことを基に、ペットボトル全体から受けるイメージを整理して、話し合いながら他の商品（お茶以外のペットボトル商品）へとつなげて比較する班もあった。また、実際に各ペットボトルの商品イメージや販売戦略などをタブレット端末で調べることで、企業側がペットボトルをデザインし、生産、販売する際の考え方や理念を理解することができた。生徒にとっては、自分たちの身の回りの商品がどんな道のりを経て、手元に届いているかを知る機会になり、消費者としての視点や広告の方法などにも思考を巡らせることができた。学びの過程を見取るためのワークシートには、他教科との接続についても記述する生徒がいることから、教科の垣根を越えた鑑賞活動に発展していくことができたと考える。

検証授業を通じて、日頃から身の回りの形や色彩、材料や光などの性質に関心をもち、造形的な特徴を捉え、自らの生活を豊かにしていく態度を育んでいくためには、生徒にとって身近な対象や事象を扱い、具体的に触れさせる体験や経験も必要であると感じた。

［検証授業３］　（対象　第２学年）

1　題材名　「思いを贈る器（陶芸）」　―使う人の気持ちを想像して形を作り出そう―

・Ａ表現（１）イ(ｳ)、（２）ア(ｱ)及び(ｲ)

・Ｂ鑑賞（１）ア(ｲ)及びイ(ｱ)

・〔共通事項〕（１）ア及びイ

2　題材の目標

ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等	ウ　学びに向かう力、人間性等
①形や材料の性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解するとともに、造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解する。 ②陶芸粘土や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。	①器を使用する者の立場、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。 ②既製品や友達の作品から、目的や機能との調和などを感じ取り、作者の思いや表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。	①主体的に生活の中で使うものをつくる活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

3　題材の評価規準

ア　美術への関心・意欲・態度	イ　発想や構想の能力	ウ　創造的な技能	エ　鑑賞の能力
①使用する者の気持ちや機能、想像などを総合的に考えて表現することに関心をもち、主体的に構想を練ろうとしている。 ②材料や用具の特性などを主体的に生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。 ③目的や機能との調和の取れた洗練された美しさ、つくり手の意図や願いなどに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	①イメージを膨らませて、想像や感情を基に、主題を生み出している。 ②使用する者の気持ちや機能、造形的な美しさなどを形の効果を生かして総合的に考え、表現の構想を練っている。	①材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。	①感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り自分の価値意識をもって見方や感じ方を深めている。

4　研究主題との関連

視点	手だて	教師の準備、働きかけ	生徒の具体的な活動
① 題材設定の工夫	・導入部と途中の段階で、造形的な見方・考え方を深めるため、班内鑑賞を行い、授業のめあてやねらいを明確にする。	・周りにあるもののデザインや友達の作品の意図や工夫、込められた思いに気付かせる。 ・ワークシートは、〔共通事項〕を意識できるよう工夫し、それをもとにパンフレットを作成し作品とともに使う人に贈ることができるようにする。	・いろいろな形の既成の器のデザインや、友達の作品について鑑賞し合うことで、作品の意図や形の工夫を感じ取り、見方・考え方を深める。 ・ワークシートにより、身に付けるべき資質・能力について理解する。
② 場面設定の工夫	・作品の意図や表現の工夫について班内発表を行う。学び合うことで、対話的な場を設定する。	・発表しやすいワークシートと相互鑑賞用の相互評価表を準備する。	・ワークシートを基に班内発表を行い、互いの作品の意図や表現の工夫を感じ取り、使うもののデザインについて理解を深める。

5　指導観

(1)　題材観

本題材の目標は、「中学校学習指導要領美術編」の内容におけるＡ表現（１）イ(ｳ)、（２）ア(ｱ)及び(ｲ)、Ｂ鑑賞（１）ア(ｲ)及びイ(ｱ)、〔共通事項〕（１）ア及びイを受けて設定した。だれのためにどのような器をつくるのか、使う目的や使う人の条件から主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練る活動を行う。また、その発想を基に、可塑性のある粘土の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に、見通しをもって表す活動である。導入の段階で、身近にある器の用と美について気付き、見方、考え方を深める活動を行う。途中の段階では、自分とし

ての意味や価値をつくり出すため、作品を互いに鑑賞し意図や表現の工夫を学び合う活動も行う。

(2)　教材観

陶芸は、制作過程で、彫塑的、絵画的、デザイン的な要素などあらゆる創造活動が含まれるため、一つの作品をつくるまでに生徒は様々な体験をすることができる。粘土という素材は容易に変形・増量・構築と思うままに造形活動ができ、変化に富んだ構想も可能である。様々な場面で工夫を加えることにより、造形的な見方・考え方をより一層働かせ、生徒の感性や想像力を引き出すことができるであろう。

(3)　材料・用具

生徒…筆記用具、ジャージ

教師…様々な器、ワークシート、信楽粘土、手回しろくろ等の陶芸用具、釉薬

6　指導計画（10 時間扱い）　めあて…実　線　、研究の視点との関連…点　線

次	時	○主な学習内容・生徒の活動	◆指導上の留意点 ◇教師の支援	【評価規準】 （評価方法）
第1次	1	器の形から、その思いを読み取り、発表しよう。 ○様々な形の器について、どのような年齢層の人が使うものなのか、また、どのような工夫がなされているのかを班ごとに想像をし、発表し合う。 研究の視点との関連 ①使う目的や使う人の条件、器の工夫を記入するワークシートの工夫。 ②班ごとに話し合い、想像をまとめ、発表する場面の設定。	◇班ごとにくじを引かせ、一つずつ器がわたるようにする。 例　○組　○班 ★想像してみよう(p_-) ○どんな人が使うのかな？ 片手が不自由な人 ○そう思った理由は？(どんな形から？) 器の奥が深くなっていて、食べ物が自然と深いところに集まり、片手でも簡単にすくうことができそうだから。	【ア-③】 【エ-①】 （観察、ワークシート）
第2次	2	使う人の気持ちを考えた形を発想しよう。 ○学んだことを活かし、実際に制作する器のデザインを発想する。	◆使う人の気持ちを考え、主題を生み出し、豊かに発想する。	【ア-①】 【イ-②】 （観察、ワークシート）
第3次	3～7	陶芸粘土の特性を生かして成形しよう。 ○粘土の特性を生かし、自分の表現方法を追求し，見通しをもって表現する。	◇成形の方法を実演し、様々な制作方法を理解させる。	【ア-②】 【ウ-①】 （観察、作品）
第4次	8（本時）	作品のよさを伝えよう。 ○形が完成したところで、ワークシートに作品の意図や表現の工夫を記入し、パンフレットづくりの準備をする。 ○班内発表を行い、互いの作品の意図や表現の工夫を学び合う。 研究の視点との関連 ①〔共通事項〕を意識したワークシートの工夫。 ②互いの作品の意図や表現の工夫を感じ取り、学び合う場面の設定。	◆前時までの振り返りを行い、作品の形の工夫が使う人に伝わるように表現の構想を練ることを意識させる 	【ア-③】 【エ-①】 （観察、ワークシート）
第5次	9	施釉について理解しよう。 ○施釉の方法を理解し、自分のイメージに合う色付けを行う。	◆色ごとにＰＴＡの陶芸サークルの方についてもらい、生徒がアドバイスをもらいながら作業できるようにする。	【ア-②】 【ウ-①】 （観察、作品）
第6次	10	思いを伝えるパンフレットをつくろう。 ○焼成後の色の変化にも着目し、作品の工夫を使う人に伝えるパンフレットを作成する。	◆第２次、４次のワークシートを参考に、形や色に注目できるようにアドバイスを行う。	【ア-①】 【イ-②】 【エ-①】

7　成果と課題

陶芸での器の制作は、生徒の意欲をかきたてる題材ではあるが、既製品に近づけたいという思いから、同じような湯呑やコップの作品になることが多かった。今回の検証授業で、特徴のある既製品の器の形から、どうしてその形になったのか、どのような人のことを考えてつくられたのかを想像させた。その結果、「使う人の気持ちに思いを巡らせる」ことに興味をもち、様々な用途や形態の作品が見られたことは、大きな成果である。

途中段階での形に焦点を当てた相互鑑賞は、長い制作過程の中で再度目標を意識させ、新しく意味や価値を見いだすことが必要な過程である。その必要性を伝え、多くの助言や授業の工夫を行うことが今後の課題である。

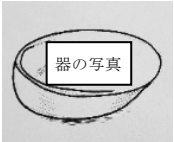
「ワークシート（第１次）」

想像してみよう！

2年　組　番　氏名

ねらい：特徴のある既製品の器の形から、どうしてその形になったのか、どのような人のことを考えてつくられたのか考えよう。

【あなたの班の器】
☆特徴を矢印→で書こう！



【私の想像】　　【友達の想像】

○どんな人が使うのか

○どうしてそう思ったのか
（その器には、どんな工夫があるのか）

「ワークシート（第２次）」

誰のために何をつくる？

2年　組　番　氏名

ねらい：使う人の気持ちを考え、思いやりのある形を発想しよう。
また、暮らしの中で使用する器のデザインを個性豊かに表現しよう。

○アイデアスケッチ　　決定した案に○をつけること

案1
○誰のため…
○何をつくるのか…
○工夫しようと思うところは

○その作品を使う人の気持ちはどうだろうか。

案2
○誰のため…
○何をつくるのか…
○工夫しようと思うところは

○その作品を使う人の気持ちはどうだろうか。

「ワークシート（第４次）」

作品のよさを伝えよう！

2年　組　番　氏名

ねらい：使う人や友達に、自分の作品の形（「用」と「美」）の工夫について、パンフレットをつくって伝えよう。

誰　のための　何をつくったのか

○「用（使いやすさ、機能）」‥赤
○「美（個性）」‥黒

写真を置く

セールスポイント

○形の工夫を矢印→で書き込もう。
↓
○図をもとに、作品に添付するパンフレットを作成しよう。
↓
○班で発表して、友達の工夫を学ぼう。

「生徒作品」
（焼成前）

「生徒作品」
（焼成後）

Ⅵ　研究の成果と課題

１　アンケート調査の結果と分析

本年度の研究主題「造形的な見方・考え方を働かせることで感性や想像力を高める指導の工夫」に基づき、研究員各校の生徒の美術の学習状況について把握するため、検証授業を行う学年の生徒を対象に、検証授業の前にアンケート調査を実施した。

＜アンケート調査の実施＞

「平成 25 年度中学校学習指導要領実施状況調査」（国立教育政策研究所）に基づき、〔共通事項〕に関連した下表の八つの設問でアンケート調査を実施した。

各校のアンケート調査実施日・学年・生徒数等は、次のとおりである。

Ａ校　令和元年　９月　６日実施・第一学年４学級・158 名

Ｂ校　令和元年 10 月　２日実施・第二学年４学級・116 名

Ｃ校　令和元年　９月 20 日実施・第二学年５学級・181 名　　３校合計 455 名

各校の題材前のアンケート調査の結果			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	美術を学習することで、多様なものの見方・考え方ができるようになると思いますか。	Ａ校	46.8%	45.6%	7.0%	0.6%
		Ｂ校	55.2%	40.5%	3.4%	0.9%
		Ｃ校	34.3%	54.6%	10.5%	0.6%
		平均	45.4%	46.9%	7.0%	0.7%
2	美術を学習することで、形や色彩などの性質や感情の効果（色のもつあたたかさなど）を理解することができるようになると思いますか。	Ａ校	68.3%	27.2%	3.2%	1.3%
		Ｂ校	64.6%	29.3%	5.2%	0.9%
		Ｃ校	61.4%	32.0%	5.5%	1.1%
		平均	64.8%	29.5%	4.6%	1.1%
3	美術を学習することで、イメージを捉える力が付くと思いますか。	Ａ校	57.6%	38.6%	3.8%	0.0%
		Ｂ校	56.1%	37.9%	6.0%	0.0%
		Ｃ校	52.5%	40.9%	5.5%	1.1%
		平均	55.4%	39.1%	5.1%	0.4%
4	美術を学習することで、アイデアを思い浮かべたり、想像したりする力が付くと思いますか。	Ａ校	64.0%	31.6%	4.4%	0.0%
		Ｂ校	66.4%	28.4%	5.2%	0.0%
		Ｃ校	66.8%	27.1%	5.0%	1.1%
		平均	65.7%	29.0%	4.9%	0.4%
5	美術を学習することで、身の回りにあるよさや美しさを感じ取る力が身に付くと思いますか。	Ａ校	57.7%	35.4%	6.3%	0.6%
		Ｂ校	55.2%	40.5%	2.6%	1.7%
		Ｃ校	42.1%	44.1%	12.1%	1.7%
		平均	51.7%	40.0%	7.0%	1.3%
6	美術の学習は、生活を明るく豊かにすることに役立つと思いますか。	Ａ校	44.9%	38.6%	15.2%	1.3%
		Ｂ校	50.9%	39.7%	6.0%	3.4%
		Ｃ校	29.3%	50.3%	18.2%	2.2%
		平均	41.7%	42.9%	13.1%	2.3%

7	美術の学習で、学んだことを家庭や学校での生活に生かしたいと思いますか。	A校	49.3%	38.0%	10.8%	1.9%
		B校	39.7%	47.4%	9.5%	3.4%
		C校	28.8%	49.7%	17.1%	4.4%
		平均	39.3%	45.0%	12.5%	3.2%
8	「7」について、どんな場面ですか。（自由記述）					
	・色合いを考えて服や部屋をデザインできる。 ・家のカーテンを季節によって変える。 ・季節感のある服装を選んだり、季節に合った色使いを考えたりする。 ・色の学習をして、夏の空と冬の空の色の違いに気付くことができた。 ・きれいな作品を見たら気持ちがよくなる。 ・人の価値観を考え、受け入れるとき。 ・家に絵・物を飾るとき。 ・お菓子づくりの色合い。 ・絵を描いて心を和ませるとき。 ・美術館に行って絵などを鑑賞するとき。 ・写真を撮るとき、色を考えながら撮ることができる。 ・料理をするときに、食材の色味を活かして一つの作品のように見た目を仕上げる場面。 ・（本の）ポップデザインを考えるとき。 ・ストレスがたまっているときに、絵などを見ると心が温まる。 ・ノートをまとめるときの色使い。 ・色によって感情が変化することもあるから、明るくなりたいときは、そういう色を見て、少しでも明るくなれるとよい。 ・学校で委員会などのポスターを描く。 ・刺繍するとき。 ・プレゼントのラッピング。 ・将来の職業に生かしたい。 ・高校や大学に進学するとき。					

＜アンケート調査結果の分析＞

・A校のアンケート調査結果の分析

A校においては、「美術の学習で学んだことを家庭や学校での生活に生かしたい」に対し、肯定的ではない生徒が約13%という結果であった。第１学年ということもあり、多くの生徒にとって「美術」とは、絵を描いたり、色合いを考えたりすることにのみ生かせる教科だと捉えているのではないかと考える。３年間の授業の中で様々な表現・鑑賞活動を経験させることで、生活の中での「美術」を見付けられる力を育むことが課題である。

・B校のアンケート調査結果の分析

設問２では肯定的な回答が約94%、設問４では約95%だった。このことは、日ごろの授業において〔共通事項〕を意識した授業の成果だと言える。このことは、美術の学習において、身に付けさせたい資質・能力である「形や色彩などの性質や感情効果について考えること」や「アイデアを出したり、想像したりする力を身に付ける」ことが実感を伴って身に付いていると考えられる。一方で、設問７の美術の学習で学んだことを生活に生かしていくことに関しては、肯定的な回答が約87%に留まった。生徒が美術の学習で学んだことが、造形的な見方・考え方として定着させていくために、生徒にとって身近なものなどを用いた題材開発を行い、感性や想像力が高まるような授業改善が必要だと感じた。

・C校のアンケート調査結果の分析

形や色彩の性質や感情の効果を理解したりアイデアを思い浮かべたりするなど授業で直接学習したことについては、相当数の生徒ができていると感じている。しかし、造形的な視点が実際の生活の中でどのように活用され生かされているのか意識できていない。アンケート結果より、造形的な視点で物事を意識できるような授業改善を行い、生徒が生活しているあらゆる場面で美術が活かされていることを伝えていく必要がある。

・３校全体の分析

設問２及び４は美術の学習ならではの造形的な見方・考え方や発想・構想の能力に関する項目であり、比較的に学習内容を踏まえた設問であるため、生徒にとって美術の学習で身に付いた実感が得られ易く肯定的な回答が 90%以上となっている。一方で、設問７は、約 84%となっており、実生活に美術の学習で学んだことを結びつけていくことに課題が見られた。

事前アンケート調査の結果と分析を基に、検証授業における手だてを (1) 題材設定の工夫、(2) 場面設定の工夫とし、〔共通事項〕をより意識した授業改善を行うこととした。

２　まとめ

検証授業１では、生徒が導入の鑑賞活動での学びを生かして主題を生成し「なりたい自分」の姿を思い描きながら表現を深めようとする姿を見取ることができた。表したいイメージをよりよく表現しようと試行錯誤する中で、生徒は造形的な見方・考え方を働かせていたと言えるだろう。

検証授業２では、生徒にとって身近な商品のデザインをきっかけに、美術科の指導事項である〔共通事項〕について学習を進めていくことができた。そして、美術科の学習だけに留まらないデザインについても生徒自身が課題を見付けて発言したり、調べたりすることができた。表現と鑑賞を相互に関連させるために、あえて鑑賞活動にじっくりと２時間取り組むことで、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを実感的に理解する場になり、次の題材への懸け橋となる時間になった。今後は、さらに他教科との関連を図るなど、学びを深めていく仕掛けや題材研究が必要であると感じた。

検証授業３では、「思いを贈る器」と題し、陶芸の成形後に相互鑑賞を行った。形に焦点を当てたワークシートにより、造形的な視点を意識した鑑賞をすることができた。また、互いの作品の意図や表現の工夫を学び合うことで、「使う人の気持ちを想像する」ことへの意識が高まったと感じた。制作期間の長い題材で、制作途中に相互鑑賞することは、再度目標を意識し、修正したり新しく意味や価値を見いだしたりするには有効であると実感することができた。

今後、あらゆる題材について、どの場面でどのような力を身に付けさせるのかを整理し、造形的な見方･考え方を働かせる指導の工夫を加えるなど､授業を改善する必要性を感じた。

これらの検証授業を振り返ると、指導者が中学校美術の授業において生徒に身に付けさせたい資質・能力を整理し、より意識的に〔共通事項〕を踏まえた授業改善をすることで、生徒にとって分かりやすく、身近で、興味・関心を高める題材開発につながった。検証授業の手だてとして行った二つの工夫を実践することで、指導者がワークシートや板書を工夫し、ICT を効果的に活用することができたため、生徒にとって造形的な視点をより捉えやすくなり、学習を深められる場になった。また、〔共通事項〕という美術科ならではの表現及び鑑賞の活動を関連させる項目に絞って研究を進めることで、焦点化して検証授業を行うことができた。

表現及び鑑賞の活動を相互に関連させ、〔共通事項〕をより意識した授業改善を行い、題材及び場面設定を工夫することは、生徒が造形的な見方・考え方を働かせ、感性や想像力を高めることにつながることを実感することができた。今後それぞれの自地区において、本研究の成果を、研究会等を通じて還元していく所存である。

平成 31 年度(2019 年度)　教育研究員名簿

中学校・美術

学　　校　　名	職　名	氏　　名
大 田 区 立 大 森 第 二 中 学 校	教　　諭	◎馬　場　恵以実
荒 川 区 立 諏 訪 台 中 学 校	教　　諭	大　黒　洋　平
西 東 京 市 立 田 無 第 一 中 学 校	教　　諭	中　井　康　子

◎　世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事　　松田　亮一

平成 31 年度(2019 年度)

教育研究員研究報告書
中学校・美術

令和２年３月

編　　集　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　　（０３）５３２０―６８４９